

2023年6月21日

リ 一 儿 政 治 学 院 書  
交 換 留 学 報 告 書



国際関係学部国際言語文化学科4年

私は2022年9月～2023年5月の9か月間、フランスの北に位置するリールという街に滞在していました。リールはベルギーとの国境にあり、パリからTGV(高速列車)で1時間の所に位置する街です。この報告書では滞在中の印象に残った出来事や成果について報告させていただきます。



## 大学について

まずリール政治学院はフランスのグランゼコールの1つとして知られていますが、様々な国から留学生を多く受け入れており国際色豊かな学校です。そのため留学生向けの授業も多く開講されており、私は秋学期・春学期共に留学生向けの授業を3つ、現地の学生向けの授業を2つの計5つの授業を履修していました(フランス語の授業2つ、英語の授業3つ)。開講されている授業内容は政治学や国際関係、経済学等多岐にわたります。そのため自分の興味に合わせて授業を履修することが可能です。私が履修した授業の中で最も印象に残っているのがhow does ecology impact your family?という授業名のエコロジーに関する授業です。この講義の成績評価はグループでエコロジーに関心がある人にインタビューを行い、それを踏まえてレポートを作成することでした。私たちのグループは同じグループのドイツ人学生の友達にインタビューすることに決めました。2人とも小さい頃に(ヴィーガン寄りの)ベジタリアンとして生きることを決めたそうです。1人は家族に影響されてその生き方を選んだのではなく彼女自身でベジタリアンとして生きることを決めたと言っていました。そのため、家族の理解を得るまで食事面でかなり苦労したそうです。それにも関わらずサステイナブルなライフスタイルを確立していることに感心させられました。また、どうしても乗らなければならない時以外は基本的に飛行機等を使わず公共交通機関や自転車で移動するようにしていると聞きました。ヴィーガンやベジタリアンというと衣食住の中で食に目が行きがちですが、着る服や交通手段にまで注意を払っており、とても驚いたのを今でも覚えています。この授業を履修していた学生の中にもヴィーガンやベジタリアンの学生が多くおり授業内で考えを聞く機会もあったため、自分のエコロジーに関する視野が広まるきっかけとなりました。

また、毎週異なる学生(グループ単位で)が異なるテーマでプレゼンを準備し、それに関して議論するという形式の授業が履修していた授業の中にいくつかありました。自分にとってそれは留学中の最大の試練でしたが、授業外にグループの学生と英語で話し合いながらプレゼンを完成させ発表するという経験は間違いなく自分を成長させたと思います。周りの学生の語学スキルに圧倒される毎日でしたが、その分受ける刺激も大きく、今思えばそれが凄くいい環境にいたことを実感しています。

### 印象に残っている出来事について

さらに、滞在中は実際に現地で生活をしてみないと触れることができない経験を沢山することができ、自分の学びにも大きく繋がりました。中でも 2023 年 1 月に始まった年金改革反対デモ、大規模ストライキは私のフランス滞在中でもかなり大きな出来事です。学生や教員による大規模デモへの参加や、学生による学校封鎖で、授業が休講になる日が 1 月から 4 月にかけて多くありました。この影響で授業が思うように進まず不安を感じる一方で、フランス人の国民性に触れる凄く貴重な経験をしたと感じています。留学生の中では、限られた時間しかない留学生にとってこの状況は不当だと学校側に抗議をしようとする人、あるいはデモ参加を支援する人等意見は様々でした。自分の主張をなんらかの方法で形にすることの重要性を感じる毎日でした。私も一度フランス人の友達に誘われ、リアルで行われたデモ行進に参加しました。いつもは外からしか見たことがなかったデモ行進に初めて参加してフランス国民の政治に対する姿勢を肌身で感じ、驚くとともに感心させられました。誘ってくれた友達も普段から政治情勢に対する関心が高く、政治に対する自分の意見を常に持っている子でした。日本の政治についてうまく答えられないことも恥ずかしながら多々ありました。ですが逆に言えば、自分の政治関心を高めるいい機会になったと思います。



また、sciences po には留学生向けのイベントを企画する団体があり、新学期の初めにはバディを組むイベントがありました。そこで組んだフランス人のバディとは、クレープを一緒に作って食べたり、その子の出身の街であるトゥールーズを案内してもらい実家に泊まらせてもらったり、お互いの文化を共有したり等、彼女のおかげでよりフランスらしい体験

を沢山することができました。フランス語のレポートの添削をしてくれるなど勉強面でもサポートしてもらい、とても感謝しています。

留学の最後には、フランス人家庭で 1 週間のホームステイを経験しました。滞在場所があるにも関わらずホームステイを決意した理由としては、想像していたよりもフランス語を使用する頻度が少ないという事が挙げられます。上で述べたように、留学生用の授業を多くとっていたため現地の学生との関わりは限られており、自分から機会を作らない限り、案外英語を使う機会の方が多かったです。フランス人の友達とはなるべくフランス語を使って話すように努力していましたが、英語に甘えてしまうこともありました。そのため私はフランス語漬けの環境に身を置けるホームステイに挑戦することにしました。結果 1 週間という短い期間ではありましたが、フランス人のホストマザーと過ごしたこの 1 週間の経験はより深く思い出に残る滞在になりました。



### まとめ

この留学を通して得たものは沢山ありますが、1 番は様々なバックグラウンドを持つ人たちの「出会い」だと感じています。大学で出会った友達以外にも、交流イベントで出会った友達や、未だに連絡を取り合っている旅先で出会った友達も何人かいます。毎日外に出れば必ず出会いのチャンスがあります。彼らと文化や意見を共有しながら過ごした 1 日 1 日は自分自身を成長させる日々でした。もちろん語学面で苦勞することも何度かありましたが、それ以上に楽しかった思い出が大きいです。渡航前に漠然と感じていた不安はすっかり消え、フランスを立つ時はその地を離れることへの寂しさでいっぱいでした。日本での生活では会うこともなかったであろう友達に出会えたことや、様々な経験を通して得た価値観はこの留学で手にした何にも代えがたい財産ですし、一生忘れることはないと思います。この留学によって広がった視野を、今後の進路や人生に活かしていきたいと思っています。